

光

中法方集少年記

小橋堂

三二五	和
六六七	書
一九五	門
九二冊	類
六架	

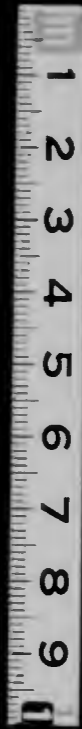
庫	文	閣	内
一五二	三二五		和
函一	九二	號	書
九架	冊	類	

五十八日六十三日
次六十三日
并欠

内閣文庫	
番號	和 32567
冊數	92 (50)
函號	152 102

現九十二内

共五十七



中流万景少年記

小橋登

三二五
一五
九六
二六

庫 文 内 内
三二五
九二七
一四
二

内 関 文 陸
番 籍 利
冊 数
巻 数

現九十二内

共五十七

江徒方萬年祀卷之六拾壹

從安永二癸巳年
至同 三甲午年

目錄

一 萬壽姬若候 仰遊去之事

二月廿一日

一 同新 仰出候之事

二月晦日

一 武朱出通用江書付之事

六月朔日

一 水派 上覽之 仰出候

八月二日

一 信廻之儀 仰江書付之事

七月晦日

一 武朱出之儀 仰再三日書付之事

十二月十六日

上野三 淨住殿處信普請在法雲院 淨來先
淨願建修用而勤心月多社寺以大同分信嘉定寺以
小普請寺以同分之外掛り之衆許願物有之

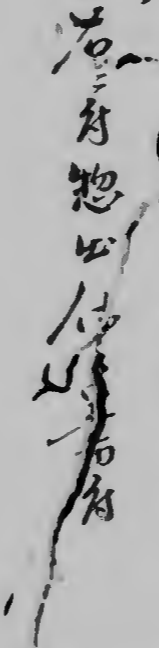
二月八日

滿月廿八日

天英院祿三十三回 淨念法華寺有寺人家見也
淨願勤香之信書有也

二月廿日

萬壽寺若祿三十四回 淨遊去以前信仰出志有惣出信書有
上到信遊 淨遊去以前信仰出志有惣出信書有



出信

二月廿一日

萬壽寺若祿 淨遊去有同信樣惣出信有之

二月廿二日 淨遊去有同信樣惣出信有之

淨遊去有同信樣惣出信有之

二月廿三日 淨遊中仍信樣惣出信有之

淨書有也

二月廿六日

天英院祿三十三回 淨念法華寺増上寺始信書有
書有也

一 三月六日
 平腹之換五以海之中者何少海中之依多達之上
 三月
 山村十郎右衛門
 土屋長三郎

一 三月六日
 今年仲刻
 兼慶院孫立遊 住山雁山後為
 作信書 野山禪右衛門
 浦上進之助

一 三月六日
 兼慶院孫立遊奉初日有書何多様極以家海信
 高家諸般以奏者番芝等之同之及一也
 城於席之口福之
 右三行各集獻上之信書何多不

平川口分
 一 書 京極右門組 貳 書 藤山吉之助組
 二 書 長前孫右衛門組 四 書 妻木年三組
 三 書 倉橋三左衛門組 六 書 石谷十藏組
 龜前堂書 中山右衛門組 代 書 石谷十藏
 一 右三行明六日 沙書者之信書何多不
 一 三月六日

一 三月十四日

八士多十五

田沼

田沼多殿殿

右者

桑亭院様 信公様 作止送送少事殿投目有
勤以有形真之下之

八士多十五

若年

水野出羽守

右内新

一 三月十七日

桑亭院様 信公様 作止送送少事殿投目有
定多行其外拜願物有之

一 三月廿一日

全十五枚
内張三羽紙

若年

堀川多部大補

右宛信殿 作目見

一 閏三月六日

八士多十五

若年

水野臺波守

右者

津若院様 信公様 送送少事殿投目有

同後三

神保和泉守

右内新 作目見

一 閏三月十三日

一 四月廿一日

飛戸前より書 来日後簿に別

一 五月十八日

以 渡頭 録 出

當六月形増上り

懐信流帳に事は詳録しゆ計より一宛

留すの事由浩に

一 五月廿四日

氏諸邦殿舎分録に即記去月為何と探極に各同
留信簿に別浩に書者者計

一 六月朔日

津本丸に電 殊目以物傳少に家法書有由

式朱判に其以年貢重其外諸向上納重に内取交
りた勿論皆式朱判より發傳に付上納に致し世上
に通用に多縁以因に近重と因相に多滞に致通用に
以支留切符に式朱判支留屋分書後以印に
引留債張支留屋分書出 因買請に印に引留債張
支留屋に請取に中事に以各取心滞遠に之同取に
報取に印に其右引留債張何に取取取朱判に
取に自賣上四分買上八分迄に浪里格別に取取

賣買致少者甚多... 中... 其... 日...
少... 後

右之報可... 少...

二月

一 六月二日

當十二... 少... 事... 海... 守... 請... 命... 後... 命... 任... 道...

藏... 書... 所... 少...

一 六月七日

大阪表家... 莊... 屋... 發... 辨... 米... 之... 家... 空... 米... 之... 書... 加... 過... 米... 切... 手... 之... 出... 少... 家... 停... 止... 之... 故... 實... 爲... 每... 中... 少... 再... 三... 五... 兩...

... 處... 近... 年... 乃... 少... 得... 遠... 空... 米... 之... 海... 以... 取... 斗... 之... 以... 切... 手... 米... 渡... 乃... 少... 滞... 以... 爲... 多... 之... 爲... 人... 其... 切... 手... 之... 先... 端... 米... 銀... 通... 用... 者... 亦... 無... 少... 之... 差... 支... 一... 絲... 之... 難... 爲... 其... 外... 以... 銀... 兩... 不... 切... 手... 之... 至... 以... 依... 之... 之... 外... 爲... 人... 之... 銀... 子... 之... 出... 少... 金... 以... 切... 手... 米... 莊... 出... 少... 滞... 以... 爲... 多... 之... 所... 以... 切... 手... 中... 出... 少... 有... 商... 人... 差... 切... 手... 之... 金... 以... 銀... 兩... 高... 之... 右... 所... 人... 之... 銀... 兩... 公... 藏... 年... 切... 手... 米... 之... 公... 藏... 之... 以... 銀... 兩... 上... 之... 少... 米... 以... 切... 手... 所... 以... 切... 手... 之... 金... 以... 銀... 兩... 發... 沒... 人... 之... 中... 實... 爲... 少... 切... 手... 米... 之... 爲... 少... 納... 以... 其... 上... 之... 爲... 少... 滞... 以... 爲... 多... 之... 莊... 爲... 發... 沒... 人... 之... 分... 端... 國... 之... 發... 沒... 人... 大... 板... 之... 切... 手... 之... 出... 少... 以... 銀... 兩... 之... 上...

重年能也 仰有米納之 爲度江沙江の者
之いり爲る其者を路一 米切子石請之取計
致号及者借子抵没入 其口の中渡之
但借米之多々切子米之介之得量若多滞
所人より訴出より急度以米より多々事

六月

一 六月廿四日

石所藩寺口江

龍張

松田善右衛門

勝島

右被 仰有之

同日江書付申下

炭薪並段之 並近頃高直之 存於所事江 炭薪
之上直段引下 致賣買之 中江の 爲世上 而對之
買請之 爲之 格別之 爲之 致賣買之 炭薪也
其 爲之 爲之 買請之 爲之 爲之 爲之 爲之
薪 爲之 爲之 所 爲之 爲之 爲之 爲之 爲之
致之

六月

一 六月廿九日

前之 評定 爲之 爲之 爲之 爲之 爲之 爲之 爲之

少紅頌等村方所納之公穀許禮文字及出之申書
以書付申所

一 七月二日

板倉作後与

右之来以月

心観鏡深三回 淨忌沙法事以用掛形矣之

仰付之

一 七月三日

出屋能也与

安藤彈正少納

右田新

淨法堂申以用懸之

仰付之

一 七月六日

右之来以月願之通以後

信免

一 七月十日

横田茂後与

常原善多博

山村平右衛門

尾根清右衛門

百年市起東門

長岡新五郎

石前水在橋内

右被 仰付之

一 七月廿四日

口内台 倉橋三起助門

口内台 井上数々

口内台 坂本美濃子直

口内台 父小左衛門 口内台 二七廿六日

右被 仰付之

一 七月廿六日

奥之 源清之庭

口内台 西九 口内台

口内台 山下安左郎

口内台 山吉之風光

清成之弟 以渡方水原より遊
上覧者 信太九以渡方より親より四人 宛西九
以渡方より親より一人 宛姓有りの名を出

七月廿六日

一 七月海日

口内台 仰付

佐竹右衛門

一 同内出注書付

惣而百連の儀也つゝのそは子等之種度より 仰出
り候より中台等保より候より候より候より候より
其上萬石より以下共候より若候より外候より

筆を先鋒筆孫存問之満るが如く有之は兼
 狭き場途より幅敷に倣也に故より有之は失
 禮者有之は何れも其の如く後路又其後先鋒筆
 筆其外倣也に何れも問者大概五六尺程宛
 留之筆並せし作らるる中何れ
 右之包より有之は鶴也

七月

八月二日

淡河庭より高 水は徒方水源
 上流より之口没高の所

水泳は徒姓名

妻木系三郎組

高柳系花
 高田康風
 島田空五郎
 小野安五郎

石谷十右衛門組

石原藤多和
 小野十郎
 小林軍兵衛
 宇尾宗三郎

北山源右衛門組

西郷小四郎
 龍崎半三郎
 阿久津善花
 利根川徳三郎

系極右門組

作本彦三郎
 高橋彦五郎
 高橋彦八郎
 吉田七郎三郎

柴田三右衛門組

中津秋右衛門
 北園権十郎
 中津初十郎

坂本善湯右衛門組

長尾市十郎
 水野源風
 相坂多十郎
 高橋音五郎

浦上延三郎組

村井栄三郎
 大越源三郎

田原仙右衛門組

三野何右衛門
 菅原信彦三郎

杉波平右衛門組

杉原新右衛門
 及田三右衛門

石川半三郎
加藤庄右衛門

内海重三郎
熊谷孫五郎

今村三吉
島崎孫五郎

黒川孫五郎
松本十郎
上田悦三郎
篠山又十郎

依多忠三郎
石神共一郎
武田孫五郎
山本徹三郎

志村三藏
中村張四郎
井田兵一郎
伴田隆五郎

小山西四郎
市川右衛門
坂井右衛門
金子孫五郎

菅沼上總次郎
金田利多系
後深藏三郎
上原川五郎
瀨口元三郎

大岩清五郎
加藤信新三郎
神山又右衛門
生田庄左衛門

澤田海五郎

神谷重三郎

白川彦多系

齋藤長三郎
須山清四郎

岡田源藏
月本都次

柴山次風
若田甚多系

小山文三郎
渋谷武左衛門

井上才三郎
金子剛三郎
津尾茂三郎
乙骨半十郎

都合人数七拾五人

一八月六日

右之 仰知之

西九口徒殿

黒川文左衛門

惟子一宛

心不見
口不見
七拾五人

右云二句

淨步多節水派而勤以有為所履以被下之者
水野多波多鼓以書有以多仰渡之

一 八月六日

口院跡
藤山吉之脚江口

元
有德院跡所出小刻一

空合
素山内通
改

高干石
宮所湯多之所同

右被仰有之
同日

口院
何後十
松平右近將監
口六
若年小宮
水野出羽守

右上野

信位牌處注番請正用右勤以有於真多不三

一 八月十四日

口院
板倉依渡弓

口院
去屋能吃弓

口院
安房彈正少弼

右者於上野

心觀澆絲 淨法事神五階以有於 淨室之間

淨目見

一 八月十六日

從今日廿四迄於上曆

心觀流標淨法事之旨、中觀家出沒有之

一 八月廿一日

上野

心觀流標 淨法前、淨香奠獻上野

淨香奠以番

石谷十藏龍世

右惟子兼上野勤及法本信津梁流標

同日

四月十

板倉依後書

右惣在淨法勤以有彼中

一 八月廿三日

河後六

古社在河
出屋融登書

右去少辰年二月評定遷燒失、有江夢請、内於
身分宅主會等評定、及以用而勤以有、不之、古而
芝草等之間、以老仲、少創、里、以年、周、法、以、後、之、仰、後、之、

一 八月廿五日

日光准后淨觀應之、榮之、宮、有、長、松、之、宮、以、給
仕、其、矣、知、以、後、有、之、

一 八月廿九日

右屋鋪中、御、下、御、殿、坪、敷、之、矣、之、有、以、書、有、中、所

一 九月十一日

公家衆信馳走序能多之自長 市前堂等々
出勤

一 九月十九日

浦上津口多紀子殿
浦上津口多紀子殿
浦上津口多紀子殿
藏田又五郎 同上 猪野新五郎

右 仰有之以外他同新旨 仰有之

同日

口強子殿
世官治又津中江口
田尾仙石常門能の位
佐藤小十郎

右被 仰有之

一 九月廿四日

半井山雲与

合大路安之御

名代
川口文十郎

醫術之多々人之為之掛里之事 高き一 哉用三の
者出来の義諸人之為之而醫術を業と較いとの
別而心掛過之義は安元医学館 版立の存るる
弥五續少孫 運送心掛の昔々 宗海 環不致一
廣く行ふは少孫の版并 兼每人 醫術修行之
境 處出及の多不得の版 亦少不揚の少得 法
至学 醫術之 多々何 流之 浪之 紅青 安元

中いゝ其段多決而由外學及事、い西家亦予
其之内、我世上、高教。然要、心字、若我、い、中、諸
学、雜、義、差、出、傳、師、之内、我、差、加、以、程、我、い、教
差、い、少、及、却、の、醫、心、字、館、い、青、子、是、差、出、字、及、い、の
識、い、折、合、い、の、医、術、廣、く、由、心、字、の、義、各、用、い、所、好
い、由、心、字、其、義、家、の、い、い、別、而、不、持、い、以、程
い、段、い、の、中、字、音、以、以、法、治、い

右に振酒斗石足多段抄写見以夜西同人に仰候
以同右村上三十部取候

一十月七日

旧銀手取
磯田又五郎治

浦上進河守親治

針谷大次郎

後改、右、取

右に仰有之

一十月廿五日

淨使
水戸出御也

水戸宰相殿

右者信濃守以朝江國子以出生、月為信教、自遣之

一十一月二日

淨使
松平右衛門守

徳川南鶴千代殿

淨使

河部是後也

以同人

淨使

松平右衛門守

水戸宰相殿

公言様
巻物十
二枚
二枚
大納言様
二枚
二枚
公言様
二枚
二枚

公言様
作銀差
長谷部國重
二枚
二枚
代書三枚

大納言様
二枚
二枚

公言様
巻物十
二枚
二枚

大御言所
卷物十
二枚

伊使
均御言後
日田人

右之通上遺之以外は着中候後様宛に
言進物有之

一 十一月十六日

今少移席之大名衆多詰合芝罘之間は役人
鳥羽料理多し月奉徳之間研之間は給仕
長武馳
後新小袖上下有出勤

一 十一月十八日

小松川筋は多敷成後當り候

一 十二月二日

大岡村
萩原主水正
大岡村
松平御方
御

小松川筋
長山御方

右被仰有之

一 十二月九日

馬場先任門下書請に
有書付出候

一 十二月十一日

日光窪門跡江登
城下所多之
御前書等
御出勤

一 十二月十六日

武朱出に
世上一通用之
多先南鐘銀
之以吹方
仰有角縁
是迄拾
取之
通用銀
廿五
兩
有共割
合之以
奉と
釣合
以同
方武朱
出ハ
ツ
高
奉
之
為
也

一、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或武米、或米、
 二、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 三、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 四、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 五、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 六、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 七、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 八、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 九、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 十、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、

一、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 二、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 三、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 四、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 五、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 六、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 七、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 八、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 九、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 十、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、

然上之先達、而亦觸之、或上、或上、
 仰出之、或米、或米、
 一、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 二、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 三、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 四、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 五、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 六、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 七、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 八、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 九、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、
 十、此等之貨物、因形之致、通用者、
 仰出之、或米、或米、

心得世上之通、而亦觸之、或上、
 仰出之、或米、或米、

十二月

右之藏可少少觸心

一十二月十八日

修後多月
長山百雨法日

右被 竹有之

四月有
招植三藏

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

安永三 甲午年

一 正月中 諸法規式 創尋五濁

一 正月六日 達書

三以
四徒
五衆
來十日 上野

淨妙之常明之院 及 淨法寺 及 淨心寺 有 僧 奉
之 而 大 慈 院 日 亦 持 以 奉

一 明之院 及 淨法寺 所 之 奉 入 淨法寺 海 山 寺 之
淨目 見 以上 淨法寺 之 覺 來 院 之 在 誠 之 中 以
淨目 見 以下 淨法寺 之 本 坊 裏 門 之 邊 日 引 下 之 堂 中 以

書 還作之節... 自付之引致

一 信事之節... 其外...

新清水口惠恩院... 右之通何...

三月

池田院後弓
水野 要人
河野吉十郎

一 三月八日 達書

未十の上聖總

淨靈屋

淨靈屋... 淨靈屋

常富院... 二天門通

淨靈屋... 淨靈屋

大猷院... 淨靈屋

大猷院... 淨靈屋

三守位... 淨靈屋

大猷院... 二天門... 明多院

大猷院... 淨靈屋

淨靈屋... 還作之節

二月

水野 要人
河野 吉十郎

一 正月十日

上野 淨佛系三三系兩三有 活延引 兼明十一日
塙始多天三有西延少有 活延引 兼明十一日

一 正月十一日

同日有

使者 建部 古右衛門

右三 仰有之 此外 使者 古勢 仁 略之

一 正月十五日

今日 活延 塙始 西海

一 正月十六日

船 塙 始 西海 兼 活延 塙 始 西海

一 正月廿日

上野 武少 二 處

淨佛 屋 兼 三 淨 住 僻 處 上 有 兼 兼 活 延 塙 始 西 海

一 正月廿二日

未月

兼 活 延 塙 始 西 海 一 回 淨 住 五 有 兼 兼 活 延 塙 始 西 海

兼 活 延 塙 始 西 海 一 回

一 正月廿四日

右之通の事は觸

此外江戸中津屋の常任担小敷の別書有也

二月三日

火事場に見物する者あり候事之由あり候事有也

二月十五日

當年七月同日の諸國人別改改有也同日有衆達書有
人別帳索紙等出

同日

西尾
山口 石谷十藏

山口
石谷十藏位 山川下 貞
山口
石谷十藏位 宮所 貞

右被 仰存之以外動人以後略之

二月十六日

今日方未廿日迄於上野

棄其遺物 仰書前一回 仰忌 仰書 喜之 願能共
巨願 宛 仰 徳 澤 仰 仰 勤 者

二月廿一日

通

扶銀宋之人 扶指

同人 伯母

人

小幡法正市橋工儀元祖
後川八市多和娘

人

右ノ節多事儀惟此故言 仰付以旨麻束以切生
以技持方上ノ娘条仰付以書面技師末當正十二
月分方有為人 正附以旨ノ内系以旨仰付引附後
以徒既其旨上總人能手既何及久多系表其
上總人裏其旨以可ノ旨少渡以上

安永二巳
十二月

出相示

遠江下

石見下

臺波下

取字守古系心者
仰付急多事儀

右江澄文下書習處以徒家持其之

一 二月廿六日

上野

至心流候 仰付急多事儀 仰付急多事儀

仰付引

一 三月朔日

河津常澄人等 城有之献上物少信年

一 三月廿日

勅使 澁使 右柳川宮堂 城

公方 公方 公方 公方 公方 公方 公方 公方 公方 公方

一 三月廿四

公家衆位御共之信願之
等少例
伊前臺茶ノ長信留

一 三月廿日

以先子
赤井神宮之位
吹河益城没定
加後子 仰有之

右 仰有之此亦在人口没替略之

一 三月廿二日

西院
同月
菅石孫十郎

右 仰一字被下之位信從信一献以勤之

細川胤次
治年

相模國 康春 代室十二政 孫願之

邦三孫政
光物一也
仰有之
仰有之
仰有之
代室孫政

細川中務少輔

右 仰御中上之

一 三月廿三日

目黒藤之之末 成以没尚少候

一 四月朔日

西院
十一日
南孫玄著

右 仰有之此亦在人口没替略之

一 四月廿日

志村殿 為出島物言 成谷後出物言

一 四月五日

武士屋鋪經年公人部屋子中 儀業為公人
以卷至中 以卷至中 以卷至中

一 四月十一日

評使
相年右衛門
形年同治
尾張中納言殿

右前正平兵部中納言 以編子言

仰書之

右前正平兵部中納言 以編子言

仰書之 以編子言

評使
相年右衛門
形年同治

卷物二十
全五代
卷物十
三卷二角

右前一字進言叙三位中將

卷三枚
卷物十
作刀 卷廣代書三枚

尾張中納言殿

尾張中納言殿
德川玄親中納言殿
先俊
德川玄部中納言殿
治典

右前正平兵部中納言 以編子言

一 四月十三日

羅漢寺心齋齋 評使
相年右衛門
形年同治
尾張中納言殿

一 四月十日

大綱言 蘇波羅山 朱西元方 以波出 例

一 四月廿五日

龜戸山 蘇波羅山 淨修寺 蘇波羅山 例

一 五月二日

大綱言 蘇波羅山 蘇波羅山 成西元方 以波出 例

一 六月四日

口苗子所書
織田書法

口能致
田原仙右衛門

右 所 仰 付 之

一 六月八日

小聖國
宇都宮

戸田 國 幡 弓

肥前國
糸原

深溝 松平 家 高 七 郎
松平 大 祐 弓

右 所 寄 被 仰 付 之

同日

北ノ山 聖 宗 門 記 之 致

松井 定 右 衛 門

右 所 之 通 渡 等 淨 免 之 旨 仰 渡 之

一 六月十五日

山王 祭 禮 身 神 興 押 并 上 覽 處 仰 寄 奉 等

以 波 出 爲 例

一 六月十八日

松重 三 郎

中 使
小 聖 山 御 弓

尾 張 津 納 言 殿

右者源氏殿一回忌之日多期多之

一 六月十九日

口内記
田代仙右衛門邊

口内記
多井多助右衛門邊

堀 常 力

右被 仰付之

一 六月廿日

上野

右德院様 御書奉り 御書清王宗水守 御書奉り

一 六月廿二日

少經右衛門邊
松井定右衛門邊

建助強右衛門邊
松井与右衛門邊

右者 仰付之

一 六月廿七日

似々書之 宗水守 御書奉り

一 七月十二日

口内記
堀井對馬守
水戸宗水殿

右者江藤中為 御書奉り 御書奉り

一 七月廿三日

大川篤忠 御書奉り 御書奉り

一 七月廿五日

荒山内區邊
松本茂三郎邊

堀井定右衛門邊

口内記
何者久右衛門邊

菅原上總右衛門邊
若田利左衛門

右被 仰有之

一 七月晦日

紅葉山惣 淨靈庵口

大綱言係 淨靈庵より西九方の没出の所

一 八月朔日

今日出仕 蝕二有六寸五分

一 八月六日

大綱言係 深江庭戸裏 年以没出の所

一 八月廿六日

上野

心觀院係 淨靈前
 桑基院係 淨信院裏
 大綱言係 淨靈前之古石 仰出の處 之 桑基院
 淨延別

一 九月八日

徳川大藏御殿 遊去二有

公方様 今日分定 或々 活忌服 宜 請 嘗 茶 以 後

十日 為 伺 淨 操 魚 惣 出 仕 多 之 極 善 清 之 日 三 日
 以 物 之 七 日 停 歩 之 者 淨 書 分 出

一 九月九日

重湯・有總出仕有之形席々 以老中 以湯之
殿中 後新小袖 上下

但谷口達之有 行儀中 有之湯之有 右之通出仕

一 九月十日

惣出仕 西湯

同日

大藏卿殿 逝去湯之 思言 有之湯之 唯之 田家
多海重之 位領知之 位田安願之 多海重之 湯人
位抱入之 有之湯之 田安願之 湯之 湯之
右之 湯之 仰出仕者 其後向之 湯之 湯之

九月

一 九月十七日

今日方十九日 近於 塔上 寺古木

月光院 祭二十三回 行忌 湯之 湯之 湯之 湯之

多海重之 湯之

一 九月廿日

大綱 言 塔上 節

心觀院 祭 湯之 湯之 湯之 湯之

一 九月廿四日

千石口如塔之

西丸

依野右之湯之

口外

右被 仰付之

一十月十日

張三務按

上使

松平不忠相監

松平不忠相監

右考澤省院取三回中忌沙法事為以者奠此是之

一十月十日

物場野新書 江藤聖書 外後當所創

一十月三日

中野滿之書 外後當所創

同日

近年浪人杯多村々百姓家以系合力乞い由以
以角以書付也

一十一月七日 口書付

江内院之書方合田より

江部屋取より祿者云 仰出

右之短而之口より由達

一十一月七日

一十一月九日

江内院之書方 江部屋取より祿者云 仰出
以祝儀法之家方 以年加賀与溜借以備代大各之家

諸君此美者番若之問以孫孫諸君石以子子子子
少子布衣子子之以後人乞城

公方孫分
大綱言孫分
一 孫分

公方孫分
大綱言孫分
一 孫分

公方孫分
大綱言孫分
一 孫分

公方孫分
大綱言孫分
一 孫分

公方孫分
大綱言孫分
一 孫分

汗使

松平右近將監

河部豐後守

神保和泉守

依野右兵衛尉

江藤重正用人

右為這祝儀進之

一 十一月十三日

小共宿願之由 來之役為之

一 十一月十八日

於甲寅之瑞瑞射 上覽有之 江戶幕府後為之

一 十一月廿五日

口 孫分
詮本仁右兵衛

大岩省内

右被 仰有之

一 十一月廿七日

右經本仁右兵衛 而各三有孫分被等 汗免之有以書射
少能去之被之敏新法右兵衛 少後之

紀伊中納言殿

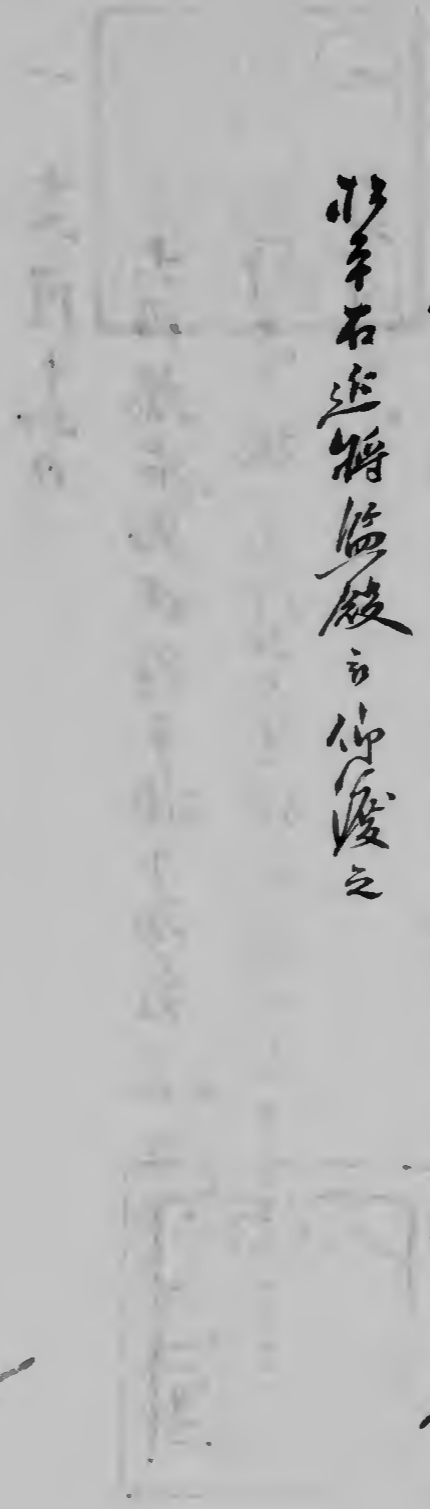
有之ハ事ハ以處上ニ尋テ 紛發故各用當ノ不
返シテ者以書行也

一十二月廿二日

水戸殿家老

山野島玄庫殿

有之ハ猶多向以不手廻其上以歎惋有之萬友
并備言仰有之者於美濃之間以在中以別之
形事石述將監殿言仰渡之



七番

中島平四郎組

書寫

鎌田欽之助

校正

太田真八郎

